



秋田県立大学 学長

小林 淳一 氏

将来を見据え、自ら課題解決に動く大学へ

目指す大学像は、社会で高い評価を受ける「信頼され、

その象徴的な取り組みがス

としての強みを生かせる分野

ドバンテージになります」

い評価を受ける「信頼され、

その象徴的な取り組みがス

としての強みを生かせる分野

ドバンテージになります」

尊敬される大学」。ものづく

マート農業の研究。ロボット

の特色を生かした農工連携研

業にも着目する。「秋田は歴

りと人づくりを通じた地域貢

や人工知能（AI）の導入で

究に取り組んできましたが、

史的にも資源で生きてきた土

献を次のステップへと発展さ

効率化が進めば、コスト削減

双方の知識や技術を結集させ

地。かつては鉱山と米、これ

せる考えを示す。「地域の『や

や収量増、担い手確保につな

るための農工連携拠点センタ

からは風力。洋上風力発電の

ってほしい』というニーズに

がり、幅広い形で本県農業の

ーを早期に立ち上げたいと考

整備は大きなプロジェクトに

応えるだけでなく、将来を見

活性化が期待できる。

えています。大潟村キャンパ

なると予想され、地元企業が

据え、大学自らが課題解決に

「農学系と工学系の学部が

スには190名の大規模実験

メンテナンなどのビジネス

動くことに力を入れたいと思

あり、「農工連携」は、大学

圃場があり、研究の大きなア

に關わる仕組みが必要です。

せつかくの資源を生かさなけ

ればなりません」。現場を担

う技術者の育成はもちろん、

風力事業全体を見渡せるハイ

レベルな人材の輩出を狙う。

人づくりの新たな取り組み

が小中学生対象のプログラミ

ング教室。「これからの時代

の基本的なスキルになるの

で、子どもたちの学習を支援

したいと考えています」。あ

らゆるものがインターネット

につながら、新たな価値が創

出される社会「ソサエティ

5・0」の到来をにらみ、地

域貢献の裾野を広げる。

を迎えた。「学生の教育満足

度は高く、『力を伸ばせる大

学」と評価されるようになって

います。特色である少人数

教育システムを磨き上げ、教

職員のスキルアップにも力を

入れていきます」。大学の魅

力をさらに高め、次代にも確

かな存在感を示していく。

7月に実施したプログラミング教室の様子(本荘キャンパス)

公立大学法人 秋田県立大学

〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西241-438

TEL.018-872-1500

https://www.akita-pu.ac.jp

1999年4月1日開学

教育・研究

Akita Prefectural University

秋田県立大学

